



虹のかけ橋

第23号 / 平成19年3月



《竹田城趾にて》



《蒟蒻づくり》



《しめ縄づくり》



《廃材で作ったオブジェ「月とネコ」》



《雉の放鳥》



《サイクリングに出発！》



《イラスト》



児童生徒の
活動や作品

当所での4泊5日のプログラムの中に、「地域と交流しよう」、「自分で選ぶ活動（製作）」があります。

「地域と交流しよう」は、徒歩で、あるいは自転車で、竹田城趾、資料館、古刹や酒蔵などを訪ねる活動をしています。また、当所に地域の方々を講師として招き、上の写真のように、蒟蒻やしめ縄づくりなどの活動もしています。地域の方々のお話に、子どもたちが熱心に聞き入る様子が印象的です。

「自分で選ぶ活動（製作）」では、児童生徒が、半日、自分の決めた製作活動にじっくりと取り組みます。上の写真の「オブジェ」や「イラスト」、裏面の「詩」は、そんな活動から仕上がったものです。「最後まで仕上げる（完成させる）ことの喜び」を大切にして、活動を進めています。

今号の見開きページは、「家庭訪問について」です。

兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~yamabiko-bo/>

「家庭訪問」について

本年度、当所が行いました「自主研修講座」、「地域やまびこ教室」での「教職員等研修会」等で、参加された先生方から、「家庭訪問」についてお話をうかがう機会がよくありました。

その中で、先生方が成功例として話されたことや講師の先生が話されたこと、本年度のSSN（スクーリング・サポート・ネットワーク）整備事業において、「訪問指導」に関する情報交換において話し合われたことなどをふまえながら、「家庭訪問」についてまとめてみました。

子どもになかなか会えないとき



家庭訪問の際、対象の児童生徒に会いたい、声をかけたいと望むのは、当然です。ただ、一方で、「はじめは、会えないだろうな」、「たとえ会えなくても、保護者のお話を聴こう」という姿勢ももっておくといいいのではないかと思います。

家庭での児童生徒の様子、保護者の気苦労や思いなどを受け止め、「聴く」ことによる保護者のケアというとらえ方です。

そう考えると、家庭に足を運ぶことの意味も広がり、少しずつではありますが、進展も感じられ、意義ある家庭訪問となるのではないのでしょうか。

保護者との話を進めるとき



保護者の方と話をする際、学校として、保護者の方にがんばってほしいことを、まず先に話そうとされていませんか。

「まず、おうちの人が、変わらないと」という思いは、確かにわかります。しかし、もう少し長いスパンでとらえて、当面は、「聴く、受け止める、ねぎらう」という姿勢で臨まれたら、いかがでしょうか。

「過去をふり返ってみて、自分に原因があるのではと、落ち込んでしまう。もう疲れてしまった。」

「自分で精一杯がかかったつもりでも、うまくいかないから話しているのに、『お母さんは、どう思っておられるのですか。どうしたいのですか。』と聞かれる。わからないから、話をしているのに。」

と、言われる保護者もおられます。

まず、「聴く、受け止める、ねぎらう」ことが

ら始めて、「先生には話せる」、「わかってくれる」という信頼関係を少しずつ築いていきながら、並行して、学校としての思いを伝えて行く方がいいのではないかと思います。

子どもとの会話を和やかにしたいとき



家でゲームをしていることの多い児童生徒に対して、「ゲームをしてるんだって？」と尋ねても、うつむいてしまうか、「うん」とうなずき、そのまま会話が途切れてしまいがちです。

例えば、

「最近、ゲームのことで、〇〇〇〇という言葉をよく聞くんだけど、それって何？」

と、児童生徒の興味のあることや得意なことについて、ワンステップ下に降りて、「教わる」という姿勢で臨むと、会話が展開する場合があります。

子どものペースに合わせて、ボードゲームをしたり、プラモデルの作成を手伝ったりするなど、短時間でも、時間を共有することにより、子どもに、「大丈夫だよ」という気持ちを伝えることが、大切だと思います。

「成績が…」「内申書が…」といった言葉は、その意味で、逆行する言葉かもしれません。

「今度、校門まで行ってみようか」といった提案をしようとするとき



提案する側は、準備ができていても、対象の児童生徒にとっては、突然の提案となり、びっくりするのは当然です。そのため、なかなか返事ができず、黙ってしまうことが多い

のではないかと思います。それを「拒否」と鵜呑みにして、あきらめてしまうのではなく、

「また、考えておいてね。」

と、次の機会までに本人に決めさせる時間を与えるゆとりを持ちたいものです。

また、そうしたチャンスを2～3回、設けるくらいの見通しを持っておくことも必要でしょう。

動きが見え始め、つい「次のステップにも」と、新たな提案をしそうになるとき



「ひとつのステップで、まずは2週間」というスパンを基本としてみましょう。例えば、「校門まで」来ることだけに「2週間」ということになります。

「別室」に入られるようになったとしても、

「別室」において、どのくらいの時間、どのような活動をするのかにより、またいくつかのステップが生じてくるでしょう。そのステップ一つ一つに「2週間」ととらえるわけです。いささか悠長に感じられるスパンかも知れませんが、具体的な働きかけを計画する上で、有効な目安となるでしょう。

また、子どもに提案した事柄は、「約束」として、必ず守るようにしましょう。「昇降口で、15分だけ」なら、その「15分」を守ることが大切です。

その時に、調子が良さそうに見えるからといって、時間を伸ばしたり、教室の近くまで行ったりと、次の提案をしそうになりますが、それは、また次の機会とする方が効果的です。

新年度に向けて

《新年度は子どもたちに働きかけるチャンス》

昨年の4月、当所を利用した多くの児童生徒が新学年になって登校を始めたことを聞き、喜ぶと同時に、学年が変わるということは子どもにとっても一年の大きな節目の一つであることを感じました。

登校できた理由を保護者にたずねると、「春休み中、担任の先生が、何回か家庭訪問してくださいました。子どもが安心したようです」など、学校から根気よく登校へのアプローチがあったという理由が主なものでした。不登校の児童生徒への再登校を働きかけるチャンスとして、新年度当初は、重要な時期ではないでしょうか。

《小・中学校間の連携について》

子どもにとって大きく環境が変わる中学校進学時での小・中学校の連携こそ、中学校での不登校対応の出発点と言えるでしょう。

事前の情報交換で、不登校の状況、友人関係、保護者の協力度、有効な働きかけや指導上の留意事項などについて情報を引き継ぐことも、多いでしょう。

時折、この「ひきつぎ」での不登校対応に関する情報交換について、「生徒に対する偏見等をも

たらずのではないか。白紙の状態で見たい」などの意見を聞くこともあります。

しかし、不登校問題の背後にある様々な事情を把握することは、的確で迅速な対応が可能にします。また、不登校の未然防止にもつながります。

小学校と中学校の双方が手を携えて、9年間を通して、働きかけや支援を考えていくことが大切ではないかと考えます。

《子どもたちの気持ちに寄り添って》

毎日当たり前のように通っていた学校も、いったん不登校となると、復帰するのにたいへんなエネルギーを必要とします。そして、学校という流れに戻ろうとしながら思うようにならず、子どもたちは、いろいろな症状を見せます。ただ、共通しているのは、ほとんどの子どもたちが、「変わりたい。なんとかしたい」と思い、そのきっかけを求めていることです。

その意味でも、「家庭訪問」は有効な働きかけであり、どのように「家庭訪問」を進めていくかを具体的に検討していくことは、大切なことであると言えるでしょう。その際に、早期対応の一環として、当所への入所も一考いただければと思います。

二つの「日本一」を巡ろう！



「遠くに出かけよう」の活動として、余部鉄橋、御崎灯台を巡りました。どちらも、「日本一」が冠される場所です。

ふもとの駐車場から高台にある御崎灯台まで、時折眼下に見える海に歓声をあげながら、みんなで歩いて登りました。また、余部鉄橋を見学した後は、余部駅から鎧駅まで列車に乗り、鉄橋の高さを実感しました。

来年度も、場所や施設の特色を活かし、入所してくる児童生徒にとって、より魅力ある活動を計画していきたいと考えています。



「壁」

雨の降る冬 みんなは中にいる
ぼくは壁の外 その壁をのりこえようとするが
のぼれない

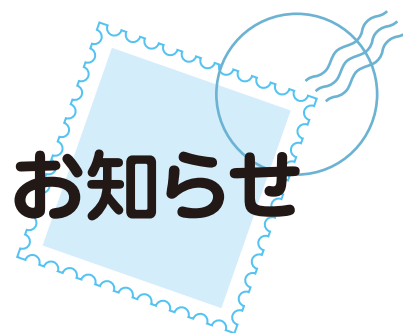
今回の主役はだれ？
ぼくは外にいて ヤジをとばしている
ずっとこうしているのだろうか
みんなの前では仮面をかぶり
素顔は遠い暗い闇の中

壁の向こうからぼくを呼んでいる
優しい言葉が聞こえてくる

ぼくは気付いた
この壁はぼくが作り出したものだ…

平成19年度 4月当初の受け入れについて

来年度の入所は、4月9日（月）からの週より始めます。
当所の『利用の手引き』は、年度当初に、あらためて送付いたします。
入所の申込をされる場合は、事前に、電話でお問い合わせ下さい。



平成19年度 「地域やまびこ教室」について

前号（22号）で紹介しました「地域やまびこ教室」。
今年度は、県内7会場で実施しましたが、来年度は、次のように県内8会場で実施します。

《8会場の内訳》

- ・ 4会場 … 1泊2日の活動
- ・ 4会場 … 宿泊を伴わない1日だけの活動

「宿泊を伴わない1日だけの活動」は、より気軽に、児童生徒や保護者の方が参加できるように企画しているものです。

児童生徒が家庭から外へ出て、人とふれ合うことの楽しさや大切さに気づける機会として、また保護者の方の相談、交流の場として、来年度も、参加を呼びかけていただければと思います。

詳しくは、年度当初にご案内いたします。